

対象校No. 482
注4

学校コード F113310103368
注3

設置年度 令和 05年度

計画の区分： 学部の設置
注1

届出

注2

東洋大学 福祉社会デザイン学部 子ども支援学科

【届出】設置に係る設置計画履行状況報告書 (改正前大学設置基準適用)

学校法人東洋大学
令和6年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名	赤羽台事務課
職名・氏名	カチョウホ サ エノモダイスケ 課長補佐 榎本大輔
電話番号	03-5924-2165
(夜間)	03-5924-2165
e-mail	mlakyo@toyo.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に
()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- ・大学の設置の場合：「〇〇大学」
- ・学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- ・学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- ・短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- ・大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- ・大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- ・大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- ・通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 学校コードについては、以下URLを確認の上、該当番号を記載してください。

なお、該当がない場合は、本番号は学校基本調査での「学校コード」と同様の番号ですので、
当該番号を記載してください。

https://www.mext.go.jp/b_menu/toukei/mext_01087.html

4 対象校No.については、「【別紙】令和6年度AC報告書提出対象学科等.pdf」より、
該当番号を記載してください。

目次

福祉社会デザイン学部

＜子ども支援学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	15
4. 既設大学等の状況	16
5. 教員組織の状況	19
6. 附帯事項等に対する履行状況等	57
7. その他全般的事項	58

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設 置 者

学校法人東洋大学

(2) 大 学 名

東洋大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒115-8650
東京都北区赤羽台1丁目7番11号
(〒112-8606)
(東京都文京区白山5丁目28番20号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職 名	設 置 時	変 更 状 況	備 考
理 事 長	(アンザイ タカシ) 安齋 隆 (平成30年12月)		
学 長	(ヤグチ エツコ) 矢口 悦子 (令和2年4月)		
学 部 長	(ミズムラ ヒロコ) 水村 容子 (令和5年4月)		
学科長等	(ウチダ チハル) 内田 千春 (令和5年4月)		

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和5年度に報告済の内容 → (5)

令和6年度に報告する内容 → (6)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部の学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください（入試区分ごとではありません）。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位（大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」）のほか、それらのコースや専攻単位でも記載したものを、別ファイルにて提出してください。
 - ・ 様式は、令和元年度開設の4年制の学科が完成年度を越えて報告する場合（令和6年度までの6年間）ですが、設置計画履行状況等調査の対象期間が7年を越え、様式に変更が必要な場合には、別途ご連絡ください。
 - ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格（いわゆる「留学ビザ」）」により、我が国の大学（大学院を含む。）、短期大学、高等専門学校、専修学校（専門課程）及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
 - ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) -① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称（学位）	学位又は学科の分野	設置時の計画				学生募集の停止について	備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員		
福祉社会デザイン学部 子ども支援学科 学士（子ども支援学）	社会学・社会福祉学関係 教育学・保育学関係	4年	100人	2年次 0人 3年次 0人 4年次 0人	400人	—	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を（ ）書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
 - ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要（別記様式第2号（その2の1））」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。
 - ・ 学生募集停止を予定している場合は、「学生募集の停止について」で「新規入学者を募集停止予定」を選択するとともに、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止（予定）」と記載してください。（学生募集停止を予定していない場合は「—」を選択。）

(5) -② 調査対象学部等の入学者の状況

対象年度 区 分	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		春季入学以外の 学期区分について	収容定員 充足率	収容定員 充足率 (控除後)	備考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期				
A 入学定員	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	100人 (—) [—]	— (—) [—]	100人 (—) [—]	— (—) [—]	—	1.03倍	1.03倍	
志願者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	744 (—) [—]	— (—) [—]	887 (—) [—]	— (—) [—]				
受験者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	717 (—) [—]	— (—) [—]	847 (—) [—]	— (—) [—]				
合格者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	319 (—) [—]	— (—) [—]	296 (—) [—]	— (—) [—]				
B 入学者数	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	99 (—) [0]	— (—) [—]	109 (—) [0]	— (—) [—]				
入学定員超過率 B/A	—	—	—	—	—	—	—	—	0.99	—	1.09	—				

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。（過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。）
- ・ 調査対象学部等の開設年度から報告年度まで記入してください。なお、開設年度以前は「—」を記入してください。
 - ・ （ ）内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年度で行っている場合には、（ ）書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 転入学生は記入しないでください。
 - ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期（春季入学以外の学期区分を設けている場合）に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。
 - ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 - ・ 報告年度に春季入学以外の学期区分の設定を予定している場合は、「春季入学以外の学期区分について」で「春季入学以外の学期区分を設ける予定」を選択してください。（春季入学以外の学期区分の設定を予定していない場合は「—」を選択。）
 - ・ 「収容定員充足率」には、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引（令和7年度開設用）IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。また、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度から起算した修業年限に相当する期間の収容定員充足率を記載してください。
 - ・ 「収容定員充足率（控除後）」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・ 「(5) -② 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等」の「平均入学定員超過率」及び「収容定員充足率」は、「4 既設大学等の状況」AC対象学部学科等の倍率と一致しますので、留意して計算してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	令和元年度		令和2年度		令和3年度		令和4年度		令和5年度		令和6年度		備 考
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	
1 年次	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	98 [—] (—)	— [—] (—)	109 [—] (—)	— [—] (—)	
2 年次			— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	98 [—] (—)	— [—] (—)	
3 年次					— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
4 年次							— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	
計	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	98 [—] (—)	— [—] (—)	207 [—] (—)	— [—] (—)	

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) -④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区 分 対象年度	在学者数 (b)	退学者数 (a)	内 訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
					うち留学生数	
令和元年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
令和2年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
令和3年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
令和4年度	- 人	- 人	令和元年度	- 人	- 人	
			令和2年度	- 人	- 人	
			令和3年度	- 人	- 人	
			令和4年度	- 人	- 人	
令和5年度	98 人	1 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	1 人	0 人	進路再考(1人)
令和6年度	207 人	0 人	令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
			令和3年度	0 人	0 人	
			令和4年度	0 人	0 人	
			令和5年度	0 人	0 人	
			令和6年度	0 人	0 人	
合 計		1 人		1 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)

- 各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- 内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- 在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- 「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(○人)」というように、その人数も含めて記入してください。
(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) -⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和3年度】

$$\frac{\text{令和3年度の退学者数(a)}}{\text{令和3年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和4年度】

$$\frac{\text{令和4年度の退学者数(a)}}{\text{令和4年度の在学者数(b)}} = \frac{-}{-} = \boxed{-} \%$$

【令和5年度】

$$\frac{\text{令和5年度の退学者数(a)}}{\text{令和5年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{98} = \boxed{1.02} \%$$

【令和6年度】

$$\frac{\text{令和6年度の退学者数(a)}}{\text{令和6年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{207} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(1) 一① 授業科目表

[illegible]

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数				専任教員等の配置				兼任・兼担
				必修	選択	自由	教養	准教授	講師	助教	助手	
基礎教育科目	国際人の形成	Japanese Culture and Society B	1-2-3-4前	2								1
		Introduction to Japanology A	1-2-3-4後	2								1
	Introduction to Japanology B	1-2-3-4前	2								1	
	小計 (26科目)	—	6	32	0	0	0	0	0	0	10	
	キャリア	キャリアデザイン入門	1前	2								1
		コミュニケーション&マナー	1後	2								1
		キャリアデザイン実践	2後	2								1
		キャリアアベロップメント	3-4後	2								1
		インターンシップ入門	3-4前	2								1
		アントレプレナーシップ	3-4後	2								1
		口頭表現法	1-2-3-4前	2		1						1
		プレゼンテーション技法	1-2-3-4前	2							1	1
		文章読解	1-2-3-4後	2		1						1
		レポート・論文のまとめ方	1-2-3-4後	2		1						1
	小計 (10科目)	—	0	20	0	1	0	0	0	0	4	
	キャリア・市民形成	日本国憲法	1-2-3-4後	2								1
		グローバル市民論	1-2-3-4前	2								1
		環境政策論	1-2-3-4後	2								1
		情報化社会と人間	1-2-3-4前	2								1
		ダイバーシティ論	1-2-3-4後	2								1
		障害学	1-2-3-4前	2								1
		ジェンダー論	1-2-3-4前	2								1
		社会貢献活動入門	1-2-3-4後	2								1
		地域マネジメント	1-2-3-4後	2								1
		公務員論	1-2-3-4前・後	2								1
		食と健康	1-2-3-4後	2								1
	基礎会計学	1-2-3-4前	2								1	
	小計 (12科目)	—	0	24	0	0	0	0	0	0	11	
	情報	情報リテラシーⅠ	1-2-3-4前	2								5
		情報リテラシーⅡ	1-2-3-4後	2								4
		プログラミング基礎Ⅰ	1-2-3-4前	2								1
		プログラミング基礎Ⅱ	1-2-3-4後	2								1
	小計 (4科目)	—	2	6	0	0	0	0	0	0	9	
	健康・スポーツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1-2-3-4前	1								3
		スポーツ健康科学実技Ⅱ	1-2-3-4後	1								3
		スポーツ健康科学実技Ⅲ	1-2-3-4前	1								3
		スポーツ健康科学実技Ⅳ	1-2-3-4後	1								3
		スポーツ健康科学講義Ⅰ	1-2-3-4前	2								1
		スポーツ健康科学講義Ⅱ	1-2-3-4後	2								1
	小計 (6科目)	—	0	8	0	0	0	0	0	0	7	
	総合・学際	全学総合A	1-2-3-4前	2								1
		全学総合B	1-2-3-4後	2								1
		全学総合C	1-2-3-4前	2								1
		全学総合D	1-2-3-4前	2								1
		全学総合E	1-2-3-4後	2								1
		全学総合F	1-2-3-4前	2								1
		全学総合G	1-2-3-4後	2								2
		全学総合H	1-2-3-4前	2								2
		全学総合I	1-2-3-4前	2								1
		全学総合J	1-2-3-4後	2								1
		全学総合K	1-2-3-4前	2								1
		全学総合L	1-2-3-4前	2								1
		全学総合M	1-2-3-4後	2								1
		総合A	1-2-3-4後	2		1						1
		総合B	1-2-3-4後	2								1
		総合C (未開講)	1-2-3-4前	2								1
		総合D	1-2-3-4前	2								1
		総合E	1-2-3-4後	2								1
総合F		1-2-3-4後	2								1	
小計 (19科目)	—	0	38	0	1	0	0	0	0	11		
専門教育科目	必修科目	子ども支援学概論	1前	2		7	3	1				
		子ども支援学演習Ⅰ	1後	1		7	3	1				
		教育基礎論	1前	2		1						
		教育制度論	1後	2		1						
		幼児教育論	1前	2		1						
		発達心理学	1後	2		1						
		子ども支援学演習ⅡA	2前	1		7	3	1				
		子ども支援学演習ⅡB	2後	1		7	3	1				
		多文化共生保育・教育	3後	1		1						1
		子ども支援学演習ⅢA	3前	1		7	3	1				
		子ども支援学演習ⅢB	3前	1		7	3	1				
		子ども支援学演習ⅣA	4前	1		7	3	1				
		子ども支援学演習ⅣB	4後	1		7	3	1				
	小計 (13科目)	—	18	0	0	7	3	1	0	0	1	
	選択科目	子どもソーシャルワーク	3後	2		1						
		ソーシャルワーク演習Ⅳ (専門)	3後	2		1						
		卒業論文	4後	4		7	3	1				
		卒業制作	4後	2		7	3	1				
		保育原理	1前	2		1						
		児童・家庭福祉	1後	2		1						
		社会福祉の原理と政策Ⅰ	1前	2								1
		保育者論	2後	2		1						
		社会的養護	1前	2		1						
		子ども家庭支援論	4後	2		1						
		子どもと健康	1前	1		1						
		子どもと人間関係	1後	1		1						
		子どもと環境	2後	1		1						
		子どもと言葉	1前	1								1
		子どもと表現Ⅰ	1後	1			1					2
		子どもと表現Ⅱ	1後	1								1
		社会福祉の原理と政策Ⅱ	1後	2								1
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅰ	1前	2								1
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ	1後	2								1
	選択科目	医学概論	1前	2								1
		社会福祉発達史 (未開講)	1前	2								1
		ソーシャルワークの基盤と専門職Ⅱ	1後	2								7
		子どもの権利と教育	1-2-3-4前	2			1					
子育て支援実践		1-2-3-4前	1				1				0	
子どもと文学		1-2-3-4前	2		1							
海外保育フィールドワーク		1-2-3-4前	2		7	3	1					
教育と福祉		1-2-3-4後	2			1						
生活と総合学習		1-2-3-4後	2								1	
多文化共生保育・教育実践		1-2-3-4後	1		1						0	
国語表現法		1-2-3-4前	2		1							
国際児童福祉		1-2-3-4前	2		1							
ソーシャルワーク演習Ⅰ		2前	2								1	
子どもの保健		2前	2								1	
子どもの健康と安全		3前	1		1							
子どもの理解と援助	3前	1			1							
子どもの食と栄養 (実習含む)	1後	2								1		
社会的養護内容	2前	1		1								
乳児保育Ⅰ	2後	2								1		
乳児保育Ⅱ	4前	1		1								
保育実習ⅠA (施設)	2後	2		6	3	1				5		
保育実習指導ⅠA (施設)	2後	1		2	1					3		

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					業 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	教育心理学	2前		1		1					
	子ども家庭支援の心理学	3前		2		1					
	保育内容の指導法（言葉）	2前		1			1				
	保育内容の指導法（健康）	2後		1		1					
	保育内容の指導法（人間関係）	2後		1						1	
	保育内容の指導法（環境）	3前		1						1	
	保育内容の指導法（音楽表現）	3前		1			1				
	保育内容の指導法（造形表現）	2後		1						1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前		2						1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2後		2						2	
	社会福祉調査の基礎	1前		2						1	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後		2						1	
	保健医療と福祉	2前		2						1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前		1		1				1	
	高齢者福祉	1前		2						1	
	障害者福祉	1前		2						1	
	権利擁護を支える法制度	2・3前		2						1	
	貧困に対する支援	2・3前		2						1	
	刑事司法と福祉	2・3前		2						1	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2・3前		2						2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2・3後		2						2	
	福祉サービスの組織と経営	2・3後		2						1	
	社会保障Ⅰ	2・3前		2						1	
	社会保障Ⅱ	2・3後		2						1	
	特別支援教育・保育Ⅰ	1前		1		1				1	
	特別支援教育・保育Ⅱ	2前		1						1	
	保育実習ⅠB（保育所）	3前		2		6	3	1		6	
	保育実習指導ⅠB（保育所）	3前		1		3				2	
	保育・教育相談	3後		2						1	
	幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	3前		2						1	
	保育指導法	3前		2				1			
	保育カリキュラム論	2後		2				1			
	保育内容総論	1前		1		1					
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	3後		2						2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前		2		1				1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1		1				1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		1		1				1	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2前		2		2				1	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3前		4		2				1	
	子育て支援	4前		1						3	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	4前		1		3				1	
	保育実習指導Ⅲ（施設）	4前		1		2				1	
	保育実習Ⅱ（保育所）	4前		2		6	3	1		5	
	保育実習Ⅲ（施設）	4前		2		6	3	1		2	
	教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	3後		5		1	1			1	
	保育・教職実践演習	4後		2		1	1			1	
	音楽表現専門演習	2・3・4後		2							
	発達心理学専門演習	2・3・4後		2		1					
	保育音楽表現技術Ⅰ	2・3・4前		2			1			2	
	保育音楽表現技術Ⅱ	2・3・4前		2			1			3	
	音楽あそびの実践	2・3・4後		2			1				
	体育あそびの実践	2・3・4後		2		1					
	造形あそびの実践	2・3・4後		2						1	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前		2		1				1	
	小計（95科目）	—	0	167	0	7	3	1	0	0	40
合計（263科目）			34	407	0	7	3	1	0	0	147
卒業要件及び履修方法											
1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2) 基礎教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目2単位以上の合計6単位以上を含み、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3) 専門教育科目で、学科専門科目を69単位以上（うち必修科目18単位、選択必修科目4単位もしくは6単位、選択科目47単位以上）修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位）） なお、学科専門科目の選択単位のうち、子どもソーシャルワークとソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）から2単位、卒業論文、卒業制作から4単位もしくは2単位を選択必修とする。											

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					業 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手	
専 門 教 育 科 目	教育心理学	2前		1		1					
	子ども家庭支援の心理学	3前		2		1					
	保育内容の指導法（言葉）	2前		1				1			
	保育内容の指導法（健康）	2後		1		1					
	保育内容の指導法（人間関係）	2後		1						1	
	保育内容の指導法（環境）	3前		1						1	
	保育内容の指導法（音楽表現）	3前		1			1				
	保育内容の指導法（造形表現）	2後		1						1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前		2						1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）	2後		2						1	
	社会福祉調査の基礎	1前		2						1	
	ソーシャルワーク演習Ⅱ（専門）	2後		2						1	
	保健医療と福祉	2前		2						1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前		1		1				1	
	高齢者福祉	1前		2						1	
	障害者福祉	1前		2						1	
	権利擁護を支える法制度	2・3前		2						1	
	貧困に対する支援	2・3前		2						1	
	刑事司法と福祉	2・3前		2						1	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2・3前		2						2	
	地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2・3後		2						2	
	福祉サービスの組織と経営	2・3後		2						1	
	社会保障Ⅰ	2・3前		2						1	
	社会保障Ⅱ	2・3後		2						1	
	特別支援教育・保育Ⅰ	1前		1		0				1	
	特別支援教育・保育Ⅱ	2前		1						1	
	保育実習ⅠB（保育所）	3前		2		7	3	1		2	4
	保育実習指導ⅠB（保育所）	3前		1		3				1	1
	保育・教育相談	3後		2						1	
	幼児教育方法（情報機器の活用を含む）	3前		2						1	
	保育指導法	3前		2				1			
	保育カリキュラム論	2後		2				1			
	保育内容総論	1前		1		0				1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ（専門）	3後		2						2	
	ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）	3前		2		1				1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前		1		1				1	
	ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後		1		1				1	
	ソーシャルワーク実習Ⅰ	2前		2		2				1	
	ソーシャルワーク実習Ⅱ	3前		4		2				1	
	子育て支援	4前		1						4	
	保育実習指導Ⅱ（保育所）	4前		1		3	1			1	1
	保育実習指導Ⅲ（施設）	4前		1		2				1	0
	保育実習Ⅱ（保育所）	4前		2		7	3	1		2	4
	保育実習Ⅲ（施設）	4前		2		7	3	1		1	3
	教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）	3後		5		1	1			1	1
	保育・教職実践演習	4後		2		1	1			1	
	音楽表現専門演習	2・3・4後		2							
	発達心理学専門演習	2・3・4後		2		1					
	保育音楽表現技術Ⅰ	2・3・4前		2			1			2	
	保育音楽表現技術Ⅱ	2・3・4前		2			1			3	
	音楽あそびの実践	2・3・4後		2			1				
	体育あそびの実践	2・3・4後		2		1					
	造形あそびの実践	2・3・4後		2						1	
	ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）	4前		2		1				1	
	小計（95科目）	—	0	167	0	7	3	1	2	0	80
合計（263科目）			34	407	0	7	3	1	2	0	189
卒業要件及び履修方法											
1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2) 基礎教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目2単位以上の合計6単位以上を含み、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3) 専門教育科目で、学科専門科目を69単位以上（うち必修科目18単位、選択必修科目4単位もしくは6単位、選択科目47単位以上）修得すること。 （履修科目の登録の上限：半期24単位（年間48単位）） なお、学科専門科目の選択単位のうち、子どもソーシャルワークとソーシャルワーク演習Ⅳ（専門）から2単位、卒業論文、卒業制作から4単位もしくは2単位を選択必修とする。											

【令和5年度】

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				兼任・ 兼担				
				必 修	選 自	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 手					
基盤教育科目	哲学・ 思想	哲学	1・2・3・4前	2	2							2			
		生命と倫理	1・2・3・4後	2								1			
		宗教学	1・2・3・4後	2								1			
		小計(3科目)	—	0	6	0	0	0	0	0	0	2			
	人文科学	日本文学	1・2・3・4前	2	2	1							1		
		外国文学	1・2・3・4後	2									1		
		歴史学	1・2・3・4前	2									1		
		美術一般	1・2・3・4前	2									2		
		音楽一般	1・2・3・4後	2									1		
		文化人類学	1・2・3・4後	2									1		
		小計(6科目)	—	0	12	0	1	0	0	0	0	0	5		
		社会科学	経済学	1・2・3・4後	2	2								1	
			経営学	1・2・3・4後	2	2								1	
			法学	1・2・3・4前	2	2								1	
			政治学	1・2・3・4前	2	2								1	
			地理学	1・2・3・4後	2	2								1	
	社会学		1・2・3・4前	2	2								2		
	心理学		1・2・3・4前	2	2								1		
	統計学		1・2・3・4前	2	2								1		
	小計(8科目)	—	0	16	0	0	0	0	0	0	0	9			
	自然科学	数学	1・2・3・4前	2	2								1		
		物理学	1・2・3・4前	2	2								1		
		現代化学	1・2・3・4後	2	2								1		
		生物学	1・2・3・4後	2	2								3		
	小計(4科目)	—	0	8	0	0	0	0	0	0	0	5			
	国際人の形成	世界の伝統と文化	地域文化研究A	1・2・3・4前	2	2								1	
			地域文化研究B	1・2・3・4後	2									1	
			地域文化研究C	1・2・3・4前	2									1	
			地域文化研究D	1・2・3・4後	2									1	
			地域文化研究E	1・2・3・4前	2									1	
			小計(5科目)	—	0	10	0	0	0	0	0	0	0	5	
			グローバル社会の実践	英語および英語圏社会事情	1・2・3・4前	2	2								1
				中国語および中国語圏社会事情	1・2・3・4前・後	2	2								1
				フランス語およびフランス語圏社会事情	1・2・3・4前	2	2								1
				ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	1・2・3・4前	2	2								1
		韓国語および韓国語圏社会事情		1・2・3・4後	2	2								1	
		留学のすすめ		1・2・3・4前・後	2	2								2	
		異文化理解概論		1・2・3・4後	2	2								2	
		海外研修Ⅰ		1・2・3・4後	2	2								1	
		海外研修Ⅱ		1・2・3・4前	2	2								1	
海外実習Ⅰ		1・2・3・4前		2	2								1		
海外実習Ⅱ		1・2・3・4前		2	2								1		
短期海外研修Ⅰ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外研修Ⅱ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外研修Ⅲ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外研修Ⅳ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外実習Ⅰ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外実習Ⅱ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外実習Ⅲ		1・2・3・4前		1	1								1		
短期海外実習Ⅳ		1・2・3・4前	1	1								1			
小計(19科目)		—	0	30	0	0	0	0	0	0	0	8			
語学		英語ⅠA	1前	1	1								22		
		英語ⅠB	1後	1	1								21		
		英語ⅡA	1前	1	1								19		
		英語ⅡB	1後	1	1								20		
		英語ⅢA	2前	1	1								11		
		英語ⅢB	2後	1	1								11		
	英語ⅣA	2前	1	1								7			
	英語ⅣB	2後	1	1								7			
	Intercultural Communication Skills ⅠA	1・2・3・4前	1	1								1			
	Intercultural Communication Skills ⅠB	1・2・3・4前	1	1								1			
	Intercultural Communication Skills ⅡA	1・2・3・4後	1	1								1			
	Intercultural Communication Skills ⅡB	1・2・3・4後	1	1								1			
	English Test Preparation Ⅰ	1・2・3・4前	1	1								1			
	English Test Preparation Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	中国語Ⅰ	1・2・3・4前	1	1								1			
	中国語Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	フランス語Ⅰ	1・2・3・4前	1	1								1			
	フランス語Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	ドイツ語Ⅰ	1・2・3・4前	1	1								1			
	ドイツ語Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	韓国語Ⅰ	1・2・3・4前	1	1								2			
	韓国語Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	Business English Communication	1・2・3・4前	2	2								1			
	アカデミックライティング	1・2・3・4前	2	2								1			
	テクニカルライティング	1・2・3・4前	2	2								1			
	IELTS for Study Abroad Ⅰ Listening/Speaking	1・2・3・4前	2	2								1			
	IELTS for Study Abroad Ⅱ Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	2	2								1			
	IELTS for Study Abroad Ⅰ Reading/Writing	1・2・3・4後	2	2								1			
	IELTS for Study Abroad Ⅱ Reading/Writing	1・2・3・4前・後	2	2								2			
	Pre-Study Abroad: Listening/Speaking	1・2・3・4前・後	1	1								2			
Pre-Study Abroad: Writing	1・2・3・4前・後	1	1								1				
小計(31科目)	—	8	30	0	0	0	0	0	0	0	45				
留学生対象科目・ 交換留学生のための 必修日本語・日本文化 科目	日本語Ⅰ	1・2・3・4前	1	1								1			
	日本語Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	日本事情Ⅰ	1・2・3・4前	2	2								1			
	日本事情Ⅱ	1・2・3・4後	2	2								1			
	Integrated Japanese Ⅰ Theory	1・2・3・4前・後	2	2								2			
	Integrated Japanese Ⅰ Practice	1・2・3・4前・後	2	2								1			
	Integrated Japanese Ⅱ Theory	1・2・3・4前・後	2	2								1			
	Integrated Japanese Ⅱ Practice	1・2・3・4前・後	2	2								3			
	Integrated Japanese Ⅲ Theory	1・2・3・4前・後	2	2								2			
	Integrated Japanese Ⅲ Practice	1・2・3・4前・後	2	2								1			
	Japanese Reading Ⅰ	1・2・3・4前・後	1	1								2			
	Japanese Reading Ⅱ	1・2・3・4前・後	1	1								2			
	Japanese Reading Ⅲ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Japanese Listening Ⅰ	1・2・3・4前・後	1	1								2			
	Japanese Listening Ⅱ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Japanese Listening Ⅲ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Japanese Writing Ⅰ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Japanese Writing Ⅱ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Japanese Writing Ⅲ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Project Work Ⅰ	1・2・3・4前・後	1	1								1			
	Project Work Ⅱ	1・2・3・4後	1	1								1			
	Project Work Ⅲ	1・2・3・4前・後	1	1								2			
	Japanese Culture and Society A	1・2・3・4後	2	2								1			
	Japanese Culture and Society B	1・2・3・4前	2	2								1			
	Introduction to Japanology A	1・2・3・4後	2	2								1			
	Introduction to Japanology B	1・2・3・4前	2	2								1			
小計(26科目)	—	6	32	0	0	0	0	0	0	0	10				

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置					兼任・ 兼担	
				必修	選択	自由	准 教授	講 師	助 教	助 手			
基礎 教育 科目	キャリア ・ 市民 形成	キャリアデザイン入門	1前	2								1	
		コミュニケーション&マナー	1後	2								1	
		キャリアデザイン実践	2後	2								1	
		キャリアデベロップメント	3・4後	2								1	
		インターンシップ入門	3・4前	2								1	
		アントレプレナーシップ	3・4後	2								1	
		口頭表現法	1・2・3・4前	2		1							
		プレゼンテーション技法	1・2・3・4前	2								1	
		文章読解	1・2・3・4後	2		1							
		レポート・論文のまとめ方	1・2・3・4後	2		1							
		小計(10科目)	—	0	20	0	1	0	0	0	0	4	
		日本国憲法	1・2・3・4後	2								1	
		グローバル市民論	1・2・3・4前	2								1	
		環境政策論	1・2・3・4後	2								1	
		情報化社会と人間	1・2・3・4前	2								1	
		ダイバーシティ論	1・2・3・4後	2								1	
		障害学	1・2・3・4前	2								1	
		ジェンダー論	1・2・3・4前	2								1	
		社会貢献活動入門	1・2・3・4後	2								2	
	地域マネジメント	1・2・3・4後	2								1		
	公務員論	1・2・3・4前・後	2								1		
	食と健康	1・2・3・4後	2								2		
	基礎会計学	1・2・3・4前	2								1		
	小計(12科目)	—	0	24	0	0	0	0	0	0	13		
	情報	情報リテラシーⅠ	1・2・3・4前	2								8	
		情報リテラシーⅡ	1・2・3・4後	2								7	
		プログラミング基礎Ⅰ	1・2・3・4前	2								1	
		プログラミング基礎Ⅱ	1・2・3・4後	2								1	
		小計(4科目)	—	2	6	0	0	0	0	0	0	12	
		健康・ スポー ツ科学	スポーツ健康科学実技Ⅰ	1・2・3・4前	1								14
			スポーツ健康科学実技Ⅱ	1・2・3・4後	1								14
			スポーツ健康科学実技Ⅲ	1・2・3・4前	1								14
			スポーツ健康科学実技Ⅳ	1・2・3・4後	1								14
			スポーツ健康科学講義Ⅰ	1・2・3・4前	2								1
			スポーツ健康科学講義Ⅱ	1・2・3・4後	2								1
			小計(6科目)	—	0	8	0	0	0	0	0	0	18
		総合・学 際	全学総合A	1・2・3・4前	2								1
			全学総合B	1・2・3・4後	2								1
			全学総合C	1・2・3・4前	2								1
			全学総合D	1・2・3・4前	2								1
			全学総合E	1・2・3・4後	2								1
	全学総合F		1・2・3・4前	2								1	
	全学総合G		1・2・3・4後	2								1	
	全学総合H		1・2・3・4後	2								1	
	全学総合I		1・2・3・4前	2								1	
	全学総合J		1・2・3・4後	2								1	
	全学総合K(未開講)		1・2・3・4前	2								1	
	全学総合L(未開講)		1・2・3・4前	2								1	
	全学総合M(未開講)		1・2・3・4後	2								1	
	総合A		1・2・3・4後	2		1							
	総合B		1・2・3・4後	2								1	
	総合C		1・2・3・4前	2								1	
	総合D		1・2・3・4前	2								1	
	総合E		1・2・3・4後	2								1	
	総合F		1・2・3・4後	2								1	
	小計(19科目)		—	0	38	0	1	0	0	0	0	12	
専門 教育 科目	必修 科目	子ども支援学概論	1前	2			7	3	1				
		子ども支援学演習Ⅰ	1後	1		3	2	1					
		教育基礎論	1前	2				1					
		教育制度論	1後	2				1					
		幼児教育論	1前	2				1					
		発達心理学	1後	2		1							
		子ども支援学演習ⅡA	2前	1		7	3	1					
		子ども支援学演習ⅡB	2後	1		7	3	1					
		多文化共生保育・教育	3後	1		1						0	
		子ども支援学演習ⅢA	3前	1		7	3	1					
		子ども支援学演習ⅢB	3前	1		7	3	1					
		子ども支援学演習ⅣA	4前	1		7	3	1					
		子ども支援学演習ⅣB	4後	1		7	3	1					
		小計(13科目)	—	18	0	0	7	3	1	0	0	0	
		選択 科目	子どもソーシャルワーク	3後	2		1						
			ソーシャルワーク演習Ⅳ(専門)	3後	2		1						
			卒業論文	4後	4		7	3	1				
			卒業制作	4後	2		7	3	1				
			保育原理	1前	2		1						
	児童・家庭福祉		1後	2		1							
	社会福祉の原理と政策Ⅰ		1前	2								1	
	保育者論		2後	2		1							
	社会的養護		1前	2		1							
	子ども家庭支援論		4後	2		1							
	子どもと健康		1前	1		1							
	子どもと人間関係		1後	1			1						
	子どもと環境		2後	1		1							
	子どもと言葉		1前	1								1	
	子どもと表現Ⅰ		1後	1			1					2	
	子どもと表現Ⅱ		1後	1								1	
	社会福祉の原理と政策Ⅱ		1後	2								1	
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅰ		1前	2								1	
	ソーシャルワークの理論と方法Ⅰ		1後	2								1	
	医学概論		1前	2								1	
	社会福祉発達史		1前	2								1	
	ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ		1後	2		1		1				5	
	子どもの権利と教育		1・2・3・4前	2			1						
	子育て支援実践		1・2・3・4前	1				1	1			0	
	子どもと文学		1・2・3・4前	2		1							
	海外保育フィールドワーク		1・2・3・4前	2		1	1	0					
	教育と福祉		1・2・3・4後	2			1						
	生活と総合学習		1・2・3・4後	2								1	
	多文化共生保育・教育実践		1・2・3・4後	1		1			1			0	
	国語表現法		1・2・3・4前	2		1							
	国際児童福祉		1・2・3・4前	2		1							
	ソーシャルワーク演習Ⅰ		2前	2								1	
	子どもの保健		2前	2								1	
	子どもの健康と安全		3前	1		1							
	子どもの理解と援助		3前	1			1						
	子どもの食と栄養(実習含む)		1後	2								1	
	社会的養護内容		2前	1		1							
	乳児保育Ⅰ		2後	2								1	
	乳児保育Ⅱ		4前	1		1							
	保育実習ⅠA(施設)		2後	2		6	3	1				4	
	保育実習指導ⅠA(施設)	2後	1		2	1					2		
	教育心理学	2前	1		1								
	子ども家庭支援の心理学	3前	2		1								
	保育内容の指導法(言葉)	2前	1				1						
	保育内容の指導法(健康)	2後	1		1								

科目 区分		授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置				業 任 ・ 兼 担	
				必 修	選 出	自 由	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専 門 教 育 科 目	学 科 専 門 科 目 選 択 科 目	保育内容の指導法(人間関係)	2後	1							1	
		保育内容の指導法(環境)	3前	1							1	
		保育内容の指導法(音楽表現)	3前	1			1					
		保育内容の指導法(造形表現)	2後	1							1	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅱ	2前	2							1	
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ(専門)	2後	2							2	
		社会福祉調査の基礎	1前	2							1	
		ソーシャルワーク演習Ⅱ(専門)	2後	2							1	
		保健医療と福祉	2前	2							1	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅰ	2前	1	1						1	
		高齢者福祉	1前	2							1	
		障害者福祉	1前	2							1	
		権利擁護を支える法制度	2・3前	2							1	
		貧困に対する支援	2・3前	2							1	
		刑事司法と福祉	2・3前	2							1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅰ	2・3前	2							1	
		地域福祉と包括的支援体制Ⅱ	2・3後	2							1	
		福祉サービスの組織と経営	2・3後	2							1	
		社会保険Ⅰ	2・3前	2							1	
		社会保険Ⅱ	2・3後	2							1	
		特別支援教育・保育Ⅰ	1前	1	0						1	
		特別支援教育・保育Ⅱ	2前	1							1	
		保育実習ⅠB(保育所)	3前	2	6	3	1				5	
		保育実習指導ⅠB(保育所)	3前	1	3						2	
		保育・教育相談	3後	2							1	
		幼児教育方法(情報機器の活用を含む)	3前	2							1	
		保育指導法	3前	2			1					
		保育カリキュラム論	2後	2			1					
		保育内容総論	1前	1	1							
		ソーシャルワークの理論と方法Ⅳ(専門)	3後	2							2	
		ソーシャルワーク演習Ⅲ(専門)	3前	2	1							
		ソーシャルワーク実習指導Ⅱ	3前	1	1						0	
		ソーシャルワーク実習指導Ⅲ	3後	1	1						1	
		ソーシャルワーク実習Ⅰ	2前	2	2						1	
ソーシャルワーク実習Ⅱ	3前	4	2						1			
子育て支援	4前	1							3			
保育実習指導Ⅱ(保育所)	4前	1	3						1			
保育実習指導Ⅲ(施設)	4前	1	2						1			
保育実習Ⅱ(保育所)	4前	2	6	3	1				4			
保育実習Ⅲ(施設)	4前	2	6	3	1				2			
教育実習Ⅲ(事前・事後指導を含む)	3後	5	1	1	1				1			
保育・教職実践演習	4後	2		1	1							
音楽表現専門演習	2・3・4後	2		1								
発達心理学専門演習	2・3・4後	2	1									
保育音楽表現技術Ⅰ	2・3・4前	2							2			
保育音楽表現技術Ⅱ	2・3・4前	2		1								
音楽あそびの実践	2・3・4後	2		1								
体育あそびの実践	2・3・4後	2	1									
造形あそびの実践	2・3・4前	2							1			
ソーシャルワーク演習Ⅴ(専門)	4前	2	1									
小計(95科目)	—	0	167	0	7	3	1	1	0	41		
合計(263科目)			—	34	407	0	7	3	1	1	0	172
卒業要件及び履修方法												
1) 卒業要件となる科目で124単位以上を修得すること。 2) 基礎教育科目で、哲学・思想科目2単位以上、国際人の形成の語学の外国語科目必修8単位、キャリア・市民形成のキャリア科目2単位以上、市民形成科目2単位以上、情報科目2単位以上の合計6単位以上を含む、18単位以上を修得すること。また、外国人留学生入試入学者は、上記の他に、国際人の形成の語学の留学生対象科目必修6単位を修得すること。 3) 専門教育科目で、学科専門科目を69単位以上(うち必修科目18単位、選択必修科目4単位もしくは6単位、選択科目47単位以上)修得すること。 (履修科目の登録の上限:半期24単位(年間48単位)) なお、学科専門科目の選択単位のうち、子どもソーシャルワークとソーシャルワーク演習Ⅳ(専門)から2単位、卒業論文、卒業制作から4単位もしくは2単位を選択必修とする。												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
- ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引」の「教育課程等の概要」を確認してください。
- ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任・兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、各年度については、**認可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字**としてください。
- ・ 履修希望者がいなくなったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
- ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
- ・ 不要な年度(令和5年度開設であれば令和4年度以前)の表は適宜削除してください。
- (2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)
- ・ 専門職大学等の場合、「実験・実習又は実技による授業科目」には「【※】」、「【臨地実務実習】」による授業科目には「【臨】」、「【連携実務演習】」による授業科目には「【連】」を授業科目の名称の右側に記入してください。
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、旧カリキュラムについても記載してください。
- その場合は、新カリキュラムを全て記載したのち、最後に記載欄を追加し、年度ごとに記載してください。
- 新旧がある年度については、その別がわかるように各年度の右側に(新)又は(旧)と追記してください。
- (例: 記載順) 【認可時又は届出時】→【令和6年度】(新)→【令和5年度】(新)→【令和4年度】→【令和3年度】→【令和2年度】(旧)→【令和1年度】(旧)

(1) ①～②授業科目表に関する変更内容

【令和5年度】

- ・教育上の効果を高めるため「美術一般」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「生物学」兼任・兼担教員を「1」から「3」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「異文化理解概論」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅠA」兼任・兼担教員を「18」から「22」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅠB」兼任・兼担教員を「18」から「21」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅡA」兼任・兼担教員を「13」から「19」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅡB」兼任・兼担教員を「13」から「20」に変更
- ・授業運営上の都合のため「英語ⅢA」兼任・兼担教員を「18」から「11」に変更
- ・授業運営上の都合のため「英語ⅢB」兼任・兼担教員を「18」から「11」に変更
- ・授業運営上の都合のため「英語ⅣA」兼任・兼担教員を「13」から「7」に変更
- ・授業運営上の都合のため「英語ⅣB」兼任・兼担教員を「13」から「7」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「韓国語Ⅰ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合のため「IELTS for Study Abroad II Reading/Writing」兼任・兼担教員を「3」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「社会貢献活動入門」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「食と健康」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「情報リテラシーⅠ」兼任・兼担教員を「5」から「8」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「情報リテラシーⅡ」兼任・兼担教員を「4」から「7」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「スポーツ健康科学実技Ⅰ」兼任・兼担教員を「3」から「14」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「スポーツ健康科学実技Ⅱ」兼任・兼担教員を「3」から「14」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「スポーツ健康科学実技Ⅲ」兼任・兼担教員を「3」から「14」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「スポーツ健康科学実技Ⅳ」兼任・兼担教員を「3」から「14」に変更
- ・授業運営上の都合のため「子ども支援学演習Ⅰ」教授を「7」から「3」准教授を「3」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合のため「多文化共生保育・教育」兼任・兼担教員を「1」から「0」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ」教授を「0」から「1」講師を「0」から「1」兼任・兼担教員を「1」から「5」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「子育て支援実践」助教を「0」から「1」兼任・兼担教員を「1」から「0」に変更
- ・授業運営上の都合のため「海外保育フィールドワーク」教授を「7」から「1」准教授を「3」から「1」講師を「1」から「0」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Integrated Japanese II Theory」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合のため「ソーシャルワーク演習Ⅰ」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合のため「保育実習Ⅰ（施設）」兼任・兼担教員を「5」から「4」に変更
- ・授業運営上の都合のため「保育実習指導ⅠA（施設）」兼任・兼担教員を「3」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「特別支援教育・保育Ⅰ」教授を「1」から「0」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合のため「保育実習ⅠB（保育所）」兼任・兼担教員を「6」から「5」に変更
- ・授業運営上の都合のため「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」兼任・兼担教員を「1」から「0」に変更
- ・授業運営上の都合のため「保育実習Ⅱ（保育所）」兼任・兼担教員を「5」から「4」に変更

【令和6年度】

- ・授業運営上の都合により「留学のすすめ」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合により「異文化理解概論」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅠA」兼任・兼担教員を「22」から「24」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅠB」兼任・兼担教員を「21」から「23」に変更
- ・授業運営上の都合により「英語ⅡA」兼任・兼担教員を「19」から「17」に変更
- ・授業運営上の都合により「英語ⅡB」兼任・兼担教員を「20」から「17」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅢA」兼任・兼担教員を「11」から「22」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅢB」兼任・兼担教員を「11」から「22」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅣA」兼任・兼担教員を「7」から「24」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「英語ⅣB」兼任・兼担教員を「7」から「24」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「テクニカルライティング」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「IELTS for Study Abroad II Listening/Speaking」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「IELTS for Study Abroad II Reading/Writing」兼任・兼担教員を「2」から「3」に変更
- ・授業運営上の都合により「Integrated Japanese I Theory」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Integrated Japanese II Theory」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Integrated Japanese II Practice」兼任・兼担教員を「3」から「4」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Integrated Japanese III Practice」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合により「Japanese Reading II」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Japanese Reading III」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Japanese Listening III」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Japanese Writing I」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Japanese Writing II」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Project Work I」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合により「Project Work III」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「インターンシップ入門」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「日本国憲法」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合により「社会貢献活動入門」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合により「食と健康」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「プログラミング基礎Ⅰ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「プログラミング基礎Ⅱ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合により「スポーツ健康科学実技Ⅰ」兼任・兼担教員を「14」から「13」に変更
- ・授業運営上の都合により「スポーツ健康科学実技Ⅱ」兼任・兼担教員を「14」から「13」に変更
- ・授業運営上の都合により「スポーツ健康科学実技Ⅲ」兼任・兼担教員を「14」から「13」に変更
- ・授業運営上の都合により「スポーツ健康科学実技Ⅳ」兼任・兼担教員を「14」から「13」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「全学総合Ⅰ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「全学総合Ⅱ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合により「子ども支援学演習Ⅰ」教授を「3」から「2」准教授を「2」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合により「子ども支援学演習ⅡA」教授を「7」から「1」准教授を「3」から「2」に変更
- ・授業運営上の都合により「子ども支援学演習ⅡB」教授を「7」から「3」准教授を「3」から「0」講師を「1」から「0」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「多文化共生保育・教育」助教を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「子どもソーシャルワーク」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「社会福祉の原理と政策Ⅰ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「ソーシャルワークの基礎と専門職Ⅱ」兼任・兼担教員を「5」から「7」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「Project Work I」兼任・兼担教員を「1」から「2」兼任・兼担教員を「4」から「3」に変更
- ・授業運営上の都合により「保育実習指導ⅠA（施設）」助教を「0」から「1」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合により「ソーシャルワークの理論と方法Ⅲ（専門）」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「地域福祉と包括的支援体制Ⅰ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「地域福祉と包括的支援体制Ⅱ」兼任・兼担教員を「1」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「保育実習ⅠB（保育所）」教授を「6」から「7」助教を「0」から「2」兼任・兼担教員を「5」から「4」に変更
- ・授業運営上の都合により「保育実習指導ⅠB（保育所）」助教を「0」から「1」兼任・兼担教員を「2」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合により「保育内閣総論」教授を「1」から「0」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「ソーシャルワーク演習Ⅲ（専門）」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「ソーシャルワーク実習指導Ⅱ」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「子育て支援」兼任・兼担教員を「3」から「4」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「保育実習指導Ⅱ（保育所）」准教授を「0」から「1」助教を「0」から「1」に変更
- ・授業運営上の都合により「保育実習指導Ⅲ（施設）」助教を「0」から「1」兼任・兼担教員を「1」から「0」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「保育実習Ⅱ（保育所）」教授を「6」から「7」助教を「0」から「2」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「保育実習Ⅲ（施設）」教授を「6」から「7」助教を「0」から「1」兼任・兼担教員を「2」から「3」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「教育実習Ⅲ（事前・事後指導を含む）」助教を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「保育・教職実践演習」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「保育音楽表現技術Ⅱ」兼任・兼担教員を「0」から「3」に変更
- ・教育上の効果を高めるため「ソーシャルワーク演習Ⅴ（専門）」兼任・兼担教員を「0」から「1」に変更

- (注) ・ 2 (1) ①～②授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年度の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 - ・ 不要な年度（令和5年度開設であれば令和4年度以前）の表は適宜削除してください。
 - ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、新旧の変更内容をそれぞれ1つの枠内に記入してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計 (A)	必修	選択	自由	計	
26 科目	235 科目	0 科目	261 科目	26 科目 [－]	235 科目 [－]	0 科目 [－]	261 科目 [－]	

- (注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[] 内に、設置時の計画からの増減を記入してください。(記入例：1科目減の場合：△1)
- ・ 指定規則の改正により、新旧カリキュラムを並行して実施している場合は、「変更状況」には変更後のカリキュラム(新カリキュラム)の授業科目数及び設置時の計画からの増減を記入するとともに、「備考」に変更前のカリキュラム(旧カリキュラム)の授業科目数と設置時の計画からの増減を記入してください。

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	ドイツ語およびドイツ語圏社会事情	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2023年度開講済、2025年度開講に向け調整中。
2	アカデミックライティング	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2023年度開講済、2025年度開講に向け調整中。
3	全学総合K	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2025年度開講に向け調整中。
4	全学総合L	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2025年度開講に向け調整中。
5	全学総合M	2	1・2・3・4後	一般	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2025年度開講に向け調整中。
6	総合C	2	1・2・3・4前	一般	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2023年度開講済、2025年度開講に向け調整中。
7	社会福祉発達史	2	1前	専門	選択	担当予定教員のコマ数調整につき休講。 2023年度開講済、2025年度開講に向け調整中。

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「未開講の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1						該当なし
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門・総合」と修正して記入してください。
 - ・ 該当がない場合は「廃止の理由、代替措置の有無」欄に「該当なし」と記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の他科目担当によるコマ数調整により、一部科目の本年度開講を見送った。
 学生には開講科目の時間割等を配布のうえ未開講科目の周知を行っており、次年度以降の開講を検討中である。
 なお、これらの科目が未開講であっても学生の履修可能科目数や科目区分のバランスは十分に担保されている。

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目（３）と廃止科目（４）の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計（Ａ）}} = \frac{7}{261} = \boxed{2.68} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第３位を切り捨て、小数点以下第２位まで表示されます。
・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「（３）未開講科目」と「（４）廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況、経費

区 分		内 容			備 考			
(1)校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計			
	校 舎 敷 地	352,250.19㎡ 336,413.19㎡	㎡	㎡	352,250.19㎡ 336,413.19㎡	大学全体		
	運動場用地	189,576.05㎡	㎡	㎡	189,576.05㎡	借用面積 1,005.61㎡		
	小 計	541,826.24㎡ 525,989.24㎡	㎡	㎡	541,826.24㎡ 525,989.24㎡	借用期間 2011/4/1～ 2041/3/31		
	そ の 他	282,390.00㎡ 302,924.81㎡	㎡	㎡	282,390.00㎡ 302,924.81㎡			
	合 計	824,216.24㎡ 828,914.05㎡	㎡	㎡	824,216.24㎡ 828,914.05㎡	新校舎完成に伴う土地 の用途変更、土地売却 に伴う減 (5)		
(2)校舎	専 用	260,125.73㎡ 238,461.06㎡ 216,461.66㎡	㎡	㎡	260,125.73㎡ 238,461.06㎡ 216,461.66㎡	大学全体		
	(260,125.73㎡) -(238,461.06㎡) -(216,461.66㎡)	(㎡)	(㎡)	(260,125.73㎡) -(238,461.06㎡) -(216,461.66㎡)	新校舎完成に伴う増 (5) 新校舎完成に伴う増 (6)			
(3)教室等	講 義 室	376室 359室 349室	149室 142室	583室 415室 368室	38室 39室 (補助職員412人)	9室 5室 (補助職員0人)	大学全体	
						新校舎完成に伴う増、 用途変更による減 (5) 新校舎完成に伴う増 (5) 新校舎完成に伴う増 (6)		
(4)専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数				
	福祉社会デザイン学部			70 室				
(5)図書・設備	新設学部等 の名称	図 書 〔うち外国書〕	学術雑誌 〔うち外国書〕	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	図書・学術雑誌・電子 ジャーナル・視聴覚資 料：受入数変動による 変更 (6)
	福祉社会デザイン学部	1,552,753(314,003) 1,542,965(316,438) 1,616,816(347,389)	41,763(31,563) 40,169(29,809) 16,342(5,451)	26,479(26,301) 24,421(24,243) 23,808(23,624)	11,566 12,773 15,360			図書・視聴覚資料：受 入数変動による変更、 学術雑誌・電子ジャー ナル：計上方法変更に 加え、受入数変動によ る変更 (6)
	計	(1,536,397(312,445)) (1,533,053(315,883)) (1,590,888(344,081))	(41,763(31,563)) (40,169(29,809)) (16,342(5,451))	(26,479(26,301)) (24,421(24,243)) (23,808(23,624))	(11,504) (12,361) (14,608)	()	()	学部単位での特定不能 なため、大学全体の数
		1,552,753(314,003) 1,542,965(316,438) 1,616,816(347,389)	41,763(31,563) 40,169(29,809) 16,342(5,451)	26,479(26,301) 24,421(24,243) 23,808(23,624)	11,566 12,773 15,360			
		(1,536,397(312,445)) (1,533,053(315,882)) (1,590,888(344,081))	(41,763(31,563)) (40,169(29,809)) (16,342(5,451))	(26,479(26,301)) (24,421(24,243)) (23,808(23,624))	(11,504) (12,361) (14,608)	()	()	
(6)図書館	面 積	20,307.45㎡ 17,047.23㎡ 14,188.80㎡	2,928 2,883 2,624	1,825,775 1,795,525 1,668,100				
	閱 覧 座 席 数							
(7)体育館	面 積	28,646.91㎡ 28,637.97㎡ 26,438.24㎡	野 球 場 1 面、 サ ッ カ ー 場 2 面 テ ニ ス コ ー ト 13 面 等			新校舎完成に伴う増 (5) 新校舎完成に伴う増 (6)		
(8)経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	計画見直しに伴う変更 (5)
	教員 1 人 当り 研究 費 等	532 千円	532 千円	図書購入費	5,471 千円	4,447 千円 4,259 千円	16,534 千円	
	共 同 研 究 費 等	80,000 千円	80,000 千円	設備購入費	39,512 千円	77,354 千円 30,767 千円	119,409 千円	
	学生 1 人 当り 納付金	第 1 年次 1,360 千円	第 2 年次 1,110 千円	第 3 年次 1,110 千円	第 4 年次 1,110 千円	第 5 年次 千円	第 6 年次 千円	
	学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入等ならびに国庫からの補助金収入によって維持を図る。					

- (注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第 2 号 (その 1 の 1) に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目は A C 対象学部等の数値を記入してください。)
- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨 (所要時間・距離等) を「備考」に記入してください。
 - ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には報告年度の 5 月 1 日現在の数値を記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を **赤字で見え消し** 修正するとともに、その理由及び報告年度「(6)」を「備考」に赤字で記入してください。
 - ・ なお、昨年度の報告において **赤字で見え消し** した部分については、**見え消しのまま黒字にしてください。**
 - ・ 校舎等建物の計画の変更 (校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延) がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
 - ・ 国立大学については「(8)経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4 既設大学等の状況

大 学 の 名 称		東 洋 大 学									収容定員充足率0.7倍以下の学科数		収容定員充足率1.15倍以上の学科数	
既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	収容定員充足率	収容定員充足率(控除後)	定員変更年度 (AC期間の学科のみ)	開設年度	所在地	備 考			
	年	人	年次人	人		倍	倍	年度	年度					
文学部 第1部						1.05	1.03							
哲学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.09	1.06	—	昭和24年度	東京都文京区白山5丁目28番20号				
東洋思想文化学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.02	1.01	—	平成25年度	同上				
日本文学文化学科	4	133	—	532	学士 (文学)	1.04	1.03	—	平成12年度	同上				
英米文学科	4	133	—	532	学士 (文学)	1.03	1.02	—	昭和24年度	同上				
英語コミュニケーション学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	—	平成12年度	同上	平成29年度より学生募集停止			
史学科	4	133	—	532	学士 (文学)	1.09	1.06	—	昭和24年度	同上				
教育学科						1.03	1.02	—	昭和39年度	同上				
人間発達専攻	4	100	—	400	学士 (教育学)	1.05	1.04	—	平成20年度	同上				
初等教育専攻	4	50	—	200	学士 (教育学)	1.01	0.99	—	平成20年度	同上				
国際文化コミュニケーション学科	4	100	—	400	学士 (文学)	1.07	1.05	—	平成29年度	同上				
経済学部 第1部						1.07	1.05							
経済学科	4	250	—	1000	学士 (経済学)	1.06	1.04	—	昭和25年度	東京都文京区白山5丁目28番20号				
国際経済学科	4	183	—	732	学士 (経済学)	1.06	1.04	—	平成12年度	同上				
総合政策学科	4	183	—	732	学士 (経済学)	1.09	1.07	—	平成12年度	同上				
経営学部 第1部						1.07	1.04							
経営学科	4	316	—	1264	学士 (経営学)	1.05	1.03	—	昭和41年度	東京都文京区白山5丁目28番20号				
マーケティング学科	4	150	—	600	学士 (経営学)	1.07	1.04	—	昭和41年度	同上				
会計ファイナンス学科	4	216	—	864	学士 (経営学)	1.08	1.06	—	平成18年度	同上				
法学部 第1部						1.06	1.06							
法律学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.06	1.06	—	昭和31年度	東京都文京区白山5丁目28番20号				
企業法学科	4	250	—	1000	学士 (法学)	1.06	1.05	—	昭和40年度	同上				
社会学部 第1部						1.05	1.04							
社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.06	1.04	—	昭和34年度	東京都文京区白山5丁目28番20号				
国際社会学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.03	—	—	令和3年度	同上				
社会文化システム学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	—	—	平成12年度	同上	令和3年度より学生募集停止			
メディアコミュニケーション学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.06	1.04	—	平成12年度	同上				
社会心理学科	4	150	—	600	学士 (社会学)	1.05	1.04	—	平成12年度	同上				
社会福祉学科	4	—	—	—	学士 (社会学)	—	—	—	平成4年度	東京都北区赤羽台1丁目7番11号	令和5年度より学生募集停止			
理工学部						1.05	1.02							
機械工学科	4	180	—	720	学士 (理工学)	1.06	1.01	—	昭和36年度	埼玉県川越市鯨井2100				
生体医工学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	—	—	平成21年度	埼玉県朝霞市岡48番1号	令和6年度より学生募集停止			
電気電子情報工学科	4	113	—	452	学士 (理工学)	1.02	1.00	—	昭和36年度	埼玉県川越市鯨井2100				
応用化学科	4	146	—	584	学士 (理工学)	1.06	1.04	—	昭和36年度	同上				
都市環境デザイン学科	4	113	—	452	学士 (工学)	1.08	1.05	—	昭和37年度	同上				
建築学科	4	146	—	584	学士 (工学)	1.04	1.02	—	昭和37年度	同上				
国際地域学部						—	—							
国際地域学科						—	—		平成9年度	東京都文京区白山5丁目28番20号				

国際地域専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	—	平成22年 度	同上	平成29年度より学生募集停止
地域総合専攻	4	—	—	—	学士 (国際地域学)	—	—	—	平成22年 度	同上	平成29年度より学生募集停止
国際学部						1.09	1.07				
グローバル・イノベーション 学科	4	100	—	400	学士 (グローバル・イノベーション学)	1.15	1.14	—	平成29年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
国際地域学科						1.07	1.04	—	平成29年 度	同上	
国際地域専攻	4	210	—	840	学士 (国際地域学)	1.07	1.05	—	平成29年 度	同上	
地域総合専攻	4	80	—	320	学士 (国際地域学)	1.07	1.02	—	平成29年 度	同上	
国際観光学部						1.04	1.03				
国際観光学科	4	366	—	1464	学士 (国際観光学)	1.04	1.03	—	平成29年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
生命科学部						1.09	1.08				
生命科学科	4	113	—	452	学士 (生命科学)	1.11	1.10	—	平成9年 度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
応用生物科学科	4	—	—	—	学士 (生命科学)	—	—	—	平成21年 度	同上	令和6年度より学生募集停止
生体医工学科	4	113	—	113	学士 (生命科学)	1.07	—		令和6年度	同上	
生物資源学科	4	113	—	113	学士 (生命科学)	1.04	—		令和6年度	同上	
ライフデザイン学部						—	—				
生活支援学科						—	—		平成17年 度	東京都北区赤羽 台1丁目7番11号	令和5年度より学生募集停止
生活支援学専攻	4	—	—	—	学士 (生活支援学)	—	—	—	平成21年 度	同上	令和5年度より学生募集停止
子ども支援学専攻	4	—	—	—	学士 (生活支援学)	—	—	—	平成21年 度	同上	令和5年度より学生募集停止
健康スポーツ学科	4	—	—	—	学士 (健康スポーツ学)	—	—	—	平成17年 度	同上	令和5年度より学生募集停止
人間環境デザイン学科	4	—	—	—	学士 (人間環境デザイン学)	—	—	—	平成18年 度	同上	令和5年度より学生募集停止
総合情報学部						1.05	1.03				
総合情報学科	4	260	—	1040	学士 (情報学)	1.05	1.03	—	平成21年 度	埼玉県川越市鯨 井2100	
食環境科学部						1.02	1.01				
食環境科学科	4	126	—	336	学士 (食環境科学)	1.04	1.01	令和6年度	平成25年 度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	R6年度より入学定員変更(70→126)
フードサイエンス専攻	4	—	—	—	学士 (食環境科学)	—	—	—	平成25年 度	同上	
スポーツ・食品機能専攻	4	—	—	—	学士 (食環境科学)	—	—	—	平成25年 度	東京都北区赤羽 台1丁目7番11号	
フードデザイン学科	4	113	—	113	学士 (フードデザイン学)	1.00	—		令和6年度	埼玉県朝霞市岡 48番1号	
健康栄養学科	4	100	—	400	学士 (健康栄養学)	1.01	1.01	—	平成25年 度	同上	
情報連携学部						1.05	1.01				
情報連携学科	4	300	—	1300	学士 (情報連携学)	1.05	1.01	—	平成29年 度	東京都北区赤羽 台1丁目7番11号	
福祉社会デザイン学部						1.03	1.02				
社会福祉学科	4	216	—	432	学士 (社会福祉学)	1.03	1.03	令和5年度		東京都北区赤羽 台1丁目7番11号	
子ども支援学科	4	100	—	200	学士 (子ども支援学)	1.03	1.03	—	令和5年度	同上	
人間環境デザイン学科	4	160	—	320	学士 (人間環境デザイン学)	1.02	1.01	—	令和5年度	同上	
健康スポーツ科学部						1.04	—				
健康スポーツ科学科	4	230	—	460	学士 (健康スポーツ科学)	1.06	—	令和5年度		東京都北区赤羽 台1丁目7番11号	
栄養科学科	4	100	—	200	学士 (栄養科学)	1.02	—	—	令和5年度	同上	
文学部 第2部						1.05	1.01				
東洋思想文化学科	4	30	—	120	学士 (文学)	0.99	0.95	—	平成25年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
日本文学文化学科	4	50	—	200	学士 (文学)	1.08	1.04	—	昭和27年 度	同上	
教育学科	4	40	—	160	学士 (教育学)	1.07	1.02	—	昭和39年 度	同上	
経済学部 第2部						1.10	1.05				
経済学科	4	150	—	600	学士 (経済学)	1.10	1.05	—	昭和32年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
経営学部 第2部						1.10	1.06				

経営学科	4	110	—	440	学士 (経営学)	1.10	1.06	—	昭和41年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
法学部 第2部						1.05	1.01	—			
法律学科	4	120	—	480	学士 (法学)	1.05	1.01	—	昭和31年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会学部 第2部						1.07	1.02	—			
社会学科	4	130	—	520	学士 (社会学)	1.05	1.02	—	昭和34年 度	東京都文京区白山 5丁目28番20号	
社会福祉学科	—	—	—	—	学士 (社会学)	—	—	—	平成13年 度	同上	令和3年度より学生募集停止
大学全体(学部)	—	7375	—	26803	—	1.03	1.01	—	—		

- (注)・本調査の対象となっている大学、短期大学及び高等専門学校(以下「大学等」という。)について、既に設置している学部等(短期大学、高等専門学校にあっては学科等)の報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。(大学院、専攻科及び別科を除く)。
 なお、本調査の対象となっている大学等の設置者が設置している他の大学等の状況については、記入する必要はありません。
- ・記載項目以外、保護をかけています。不要な行は、「非表示」設定としてください。また、記載する必要がない学校種の記載欄については、「収容定員充足率」が0.7倍以下又は1.15倍以上の学科数を記入する項目を「—」とした上で、「非表示」設定としてください。
 - ・学部の学科等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
 ※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めます。
 履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度ACの対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「収容定員充足率」には、報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記入してください。
 開設後、完成年度を迎えていない学科等については、開設年度から報告年度までの報告年度における5月1日現在の収容定員数に対する学生数の割合を記載してください。
 算出に当たっては、「大学の設置等に係る提出書類の作成の手引(令和7年度開設用)IV.33収容定員の充足状況」をご確認ください。
 - ・「収容定員充足率(控除後)」には、「収容定員充足率」が1.00倍を超える場合、「大学、短期大学及び高等専門学校の設置等に係る認可の基準」第1条第2項により修業年限超過者を控除した場合及び附則第2項及び第4項を適用した場合の控除及び適用後の「収容定員充足率」を記入してください。
 なお、「収容定員充足率」が1.00倍以下の場合や、1.00倍を超える場合であっても上記の控除及び適用がない場合には、「—」としてください。
 - ・「収容定員充足率(控除後含む)」は、小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
 また、0.7倍以下又は1.15倍以上の学科については、必ず太字にしてください。当該設定は、学科のみとし、学部及び専攻を太字にする必要はありません。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。
 - ・「所在地」及び「備考」欄については、セルの結合ではなく、書式設定より設定の上、文字サイズ変更を行ってください。詳しくは、本シート右に記載のコメント機能で操作方法を案内していますのでご参照ください。

6 附帯事項等に対する履行状況等

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
	該当なし		

- (注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。以下同様。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。
- ・ 認可時または届出時に付された附帯事項に対する履行状況等の記載に当たっては、以下のとおりに記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がある場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）」と記載した上で、変更後の「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。
 - 【令和5年度報告書から記載内容に変更がない場合】
令和5年度報告書の記載内容を転記し文末に「（５）（６）」と記載してください。
 - 【令和6年度から新たに調査対象となった学科等又は令和5年度設置計画履行状況調査で付された指摘の場合】
「履行状況」及び「今後の実施計画」を記載し文末に「（６）」と記載してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該年度の調査の結果、当該大学に付された指摘を全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的かつ明確に記入してください。その履行状況等の参考や根拠となる資料があれば、添付してください。
 - ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
 - ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
 - ・ 「設置計画履行状況調査結果」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<福祉社会デザイン学部 子ども支援学科>

(1) 設置計画変更事項等

設 置 時 の 計 画	変更内容・状況、今後の見通しなど

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

本学のFD・SD推進活動においては、平成19（2007）年4月に「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を設置し、センター長兼委員長に副学長を充て、各学部・研究科から1名の委員を選出のうえ構成し、各学部・研究科の有機的な連携のもとFD・SD活動を全学的に推進してきた。

平成27（2015）年4月には、職員を構成員に加え、教職協働によるFD・SD活動を推進していくことと、従来活動を行ってきた学生FDスタッフを「学生FDチーム」としてセンター直属の組織とし、学生の参画を得ることを規程において明確にした。

平成29（2017）年4月には、「東洋大学FD推進センター」及び「FD推進委員会」を改組し、新たに「東洋大学高等教育推進センター」及び「高等教育推進委員会」を発足させ、これまでの活動を継承しながら、教学に係る大学運営の高度化と教育内容・方法の一層の質の向上を目的として活動事業の追加を図った。具体的には、①FD・SD（スタッフ・ディベロップメント）の研修会等の企画運営、②国内外の高等教育の動向に係る調査、研究及び情報提供、③新たな教育形態及び教育プログラム等の研究、開発などを事業に加え、部会の編成を「教育方法改善部会」「FD・SD研修部会」「高等教育研究部会」「教育開発・改革部会」「学生FDチーム」に改め、教育の質向上に向けて取り組んでいる。各学部・研究科の成績評価や学修成果の検証に係る支援を行うなど、全学的なFD・SD組織として活動するとともに、カリキュラム編成に係る全学組織である「東洋大学全学カリキュラム委員会」や自己点検・評価を担う「自己点検・評価活動推進委員会」と連携を図りながら、教育課程と教育方法の両面の充実に取り組んでいる。

令和3（2021）年度には、「i. 教育力の充実」「ii. 理念・方針の浸透」「iii. データ活用力の獲得」「iv. 組織運営の高度化」からなるFD・SDに係る基本方針を策定し、体系的なFD・SDプログラムを企画立案した。令和4（2022）年度より特に「教育力の充実」に資するプログラムを主軸に据え、展開している。

令和5（2023）年度には、部会を「FD・SD部会」「教育情報部会」の2つへ再編し、学修成果・成績情報を踏まえた学修指導の全学的な充実に向けてデータ作成・情報提供機能を強化する体制へと移行し、また、本学の教育DX推進基本計画で示しているオン・オフキャンパスを活用した教育の展開に向け、多様化する授業形態に対応した教材作成支援にも取り組んでいる。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

高等教育推進委員会は年3～6回程度開催しており、各学部・研究科から1名ずつ選出される教員と教学執行部、関係職員で構成される委員の3分の2以上の出席をもって委員会は成立することとしている。また、委員会内の各部会についても、必要に応じてそれぞれ年2～5回程度開催している。

c 委員会の審議事項等

- ・委員会の年次活動計画について
- ・部会の設置と各委員の配属について
- ・授業評価アンケートの実施について
- ・各種FD・SD企画の開催について
- ・学修成果の測定指標に係る検討について
- ・学修成果・成績情報を踏まえた学修指導の充実 等

② 実施状況

a 実施内容

b 実施方法

c 開催状況（教員の参加状況含む）

○ TA（ティーチングアシスタント）/SA（スチューデントアシスタント）研修会（春学期）

- ・オンライン（オンデマンド型）

2023年4月10日～5月9日開催 参加者：408名

○ TA（ティーチングアシスタント）/SA（スチューデントアシスタント）研修会（秋学期）

- ・オンライン（オンデマンド型）

2023年9月22日～10月21日開催 参加者：333名

○ 全学FD・SD研修会「INIADの今と大学教育のこれから」

- ・対面／オンライン（同時双方向型）

2023年5月27日開催 参加者：100名

○ 新任教員FD研修会

- ・対面

2023年7月8日開催 参加者：78名

○ TOYO FD・SD Channel

- ・オンライン（オンデマンド型）

48本の教材映像（2023年度は2本を新規追加）のべ視聴者：940名（2023年4月1日～2024年3月31日）

○ 英語で行うためのFD研修会 ①講義とプレゼンテーション（導入） ②発音とGlobal Englishes

- ・オンライン（同時双方向型・外部講師招聘）

2023年8月23日～8月24日開催 参加者：①6名、②8名

○ 学びを促す授業づくりワークショップ

- ・対面（外部講師招聘）

2023年8月28日～30日 参加者：22名

○ 学生の自己効力感を高めるコーチング技能入門ワークショップ

- ・対面（外部講師招聘）

2023年9月1日 参加者：21名

○ 英語で行うためのFD研修会 ③講義とプレゼンテーション（導入） ④アカデミック・ライティング（導入）

- ・オンライン（同時双方向型・外部講師招聘）

2024年2月26日 参加者：③6名、④8名

【学部・研究科内のFD活動】

○ 「海外研修と引率者に求められる危機管理」

- ・オンライン（同時双方向型・外部講師招聘）

2023年10月4日 参加者：60名

○ ソーシャルワーク教育の今後の動向

- ・オンライン（同時双方向型・外部講師招聘）

2024年3月6日 参加者：20名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

いずれの研修会も、直接的に各学部・研究科の教育改善、授業改善に資する取り組みである。また各学部・研究科では、さらに独自のFD・SD活動を展開し、それらを高等教育推進委員会で共有している。学部・研究科ごとにFD・SD活動報告書を作成し、それらを取りまとめて「東洋大学FD・SD活動報告書」を毎年作成し、学内はもちろんホームページで公開するなど、授業改善に係る取組状況を広く公表している。

さらに、研修会等を収録した動画を学内のラーニングマネジメントシステムにて配信するなど、都合により参加できなかった教員の視聴も可能とするともに、動画コンテンツを蓄積し有効活用している。

研修会以外には、平成30（2018）年度から全専任教職員を対象にメールマガジンとして「東洋大学高等教育推進センターニュースレター」を月1回程度配信し、情報発信を強化している（令和5（2023）年度9回発行、通算87回）。

具体的な内容としては「学修／学習時間の実態と教育手法」「わたしが実践する授業の工夫」「東洋大学におけるダイバーシティとその対応に向けて」「非対面授業レポート ―コロナ禍の今、そしてポストコロナに向けて」「大学運営の今」「ICT活用アイデア」などのテーマを設定し、本学の教職員、学生が執筆したコラムを連載するほか、高等教育に関する有益な情報や教育内容・方法に関するグッドプラクティスを学内で共有している。

そのほか、他大学等で開催される研修会へ参加する場合の参加費や交通費を補助しており、令和5（2023）年度はのべ32名が学外のFD・SD研修会等に参加した。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

平成25（2013）年度より全学共通のフォーマットによる授業評価アンケートを実施している。全学部で専任教員は最低2科目、非常勤講師は最低1科目以上を実施することとし、平成29（2017）年度からは、実施方法をWebに切り替えており、クォーター制度に対応した4期間（5月～8月の間、11月から翌年1月の間）のスケジュールで実施している。令和2（2020）年度および令和3（2021）年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のため非対面授業が実施されたことから、授業形態に即した設問を設定の上、実施した。

また、令和3（2021）年度に「学修者本位の教育への転換をもたらしするための授業改善を達成する」ことを目的に授業評価アンケートの見直しを行い、令和4（2022）年度から設問項目を、対面授業、非対面授業（オンデマンド型）、非対面授業（同時双方向型）の3つの授業形式に対応した設問項目へと変更し実施することとした。

実施したアンケート結果については統計処理を行い、「授業のわかりやすさについて」「授業の魅力について」「学びに関する自己評価について」等に分類した因子ごとに改善必要度を明らかにした結果表を経年比較を付して各教員に配付している。

b 教員や学生への公開状況、方法等

全学共通のアンケートを開始した平成25（2013）年度秋学期分より、全学及び各学部のアンケート結果の平均値等について、大学ホームページにて公表している。

（URL：<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/organisation/fdsd/survey/>）

また、学生への公開については、平成29（2017）年度より、ラーニングマネジメントシステムを通じて、当該科目の履修学生に対してアンケート結果を自動的に開示するシステムを取り入れている。さらに、各教員はアンケート結果に対する所見（フィードバックコメント）を同システム上に入力することとなっており、当該科目の履修学生はその所見について確認できる仕組みとなっている。上記のとおり、一方的に授業評価アンケートを行うのではなく、学生にアンケートの活用がなされていることを示し、学生の主体的な参画を促すよう、工夫している。

（注）・「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。（記入例参照）

（3）教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職学科、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見

福祉社会デザイン学部子ども支援学科は、ライフデザイン学部生活支援学科から子ども支援学専攻が独立した学科であり、福祉と教育を基盤においたこれまでの教育を更に強化・発展させ、総合大学に位置づく保育者養成学科として新たな歩みを始めるとともに、グローバル化の進展に対応した多文化理解教育の推進、情報化の進展に対応した保育における情報機器活用力の向上を推進し、高い先進性を備えた教育を展開することを目的とした学科である。今日、少子化、貧困・虐待等、子どもの育ちや子育てを巡る状況は厳しさを増していることから、こうした現代的課題に対応できる保育・幼児教育・子ども家庭福祉の専門家を養成する学科として、保育・幼児教育の分野でイノベーションを起こす人材の養成を行うこと、福祉社会デザイン学部を構成する他の学科の相互連携により、子どもから高齢者まで学問を全ての人の幸福に繋げ、福祉社会を創造する人材育成を体系的に具現化する教育を展開していく。

設置趣旨・目的に沿って計画どおり設置することができており、開設1年が経過した現時点までに展開している主な教育は、以下のとおりである。

本学では、創立者井上円了博士による「諸学の基礎は哲学にあり」を建学の精神として、一貫して哲学教育を基軸に据えた教育研究活動を行ってきており、哲学に関連する科目をとりわけ重要な基礎科目として「基盤教育科目」内の「哲学・思想」分野に設置し、2単位以上修得するよう指導している。

また、幼稚園教諭1種免許状、保育士資格、社会福祉士国家試験受験資格のための学内指導と現場配属実習を繰り返すことによって「往還型学習」を展開していくこと、グローバル化の進展に対応する多文化共生教育・保育及びインクルーシブ教育・保育、情報化時代に対応する保育現場のICT活用力向上を目指した教育を展開していくことを目的にしている。そのため、「子ども支援学概論」「保育原理」「教育基礎論」「幼児教育論」等子ども支援学や保育士・幼稚園教諭1種免許状取得のための基礎学習科目から、ICT活用の基礎を学ぶと共にグループでのアクティブラーニング等を取り入れた教育を行っている。

他に、社会福祉士国家試験受験資格は希望者10名を選抜のうえ指導を行っている。

入学者選抜については、アドミッション・ポリシーに基づいた人材を確保すべく、一般入試、大学入学共通テスト利用入試といったものだけではなく、国際バカロレアA0入学試験等、多様な入学試験を実施し選抜を行った。その結果、志願者としては、推薦入試および一般入試あわせて887名を集めることができ、入学者109名を迎えることができた。

② 自己点検・評価報告書

a 公表（予定）時期

- ・2021年度（令和3年度）認証評価申請用の「点検・評価報告書」は、2022年（令和4年）4月に公表している
- ・2022年度（令和4年度）実施分の自己点検・評価活動報告書は、全学部（学科）・全研究科において実施し、その結果を内部質保証推進組織である大学評価統括本部でとりまとめ、2023年5月に「2022年度自己点検・評価について（総括）」を公表をした。
- ・2023年度（令和5年度）は大学評価統括本部でとりまとめた「教育DX推進基本計画」及び「教学中長期計画」について外部評価を受審し、評価報告書を公表した。

b 公表方法

- ・大学ホームページ上に公開
（自己点検・評価活動報告書）<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/quality-assurance/self/>
（外部評価報告書）<https://www.toyo.ac.jp/academics/improve/vision/dx/plan/action/>

③ 認証評価を受ける計画

- ・2021年度（令和3年度）に公益財団法人大学基準協会（JUAA）の大学評価（機関別認証評価）を受審し、2022年（令和4年）3月に「大学基準に適合している」との評価結果を受けている。評価結果は、同協会及び本学のホームページにて公表している。
- ・次期大学評価（機関別認証評価）の受審は、2028年度（令和10年度）を予定している。

(注) ・ 設置時の計画の変更(又は未実施)の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

○ 設置計画履行状況報告書(令和6年度)

a 公表予定の有無 [☒ 有 ・ ☐ 無]

≪ aで「有」の場合 ≫

b 公表(予定)時期 [・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]

c 公表方法 [・ その他()]

≪ aで公表「無」の場合 ≫

d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。